

TORIDE

止石

五城目消防広報誌

【創刊号】

◆消防長・消防団長
インタビュー

◆地域を守る
「消防」という仕事とは

◆「マモるチカラ」
消防団員募集



五城目町消防本部の業務紹介

GOJOME FIRE DEPT. FIRE RESCUE EMS

「消防」には様々な業務があります。これらを通して私たちは町民の皆様の安心安全な暮らしを守り続けます。



消火隊 ～炎から命を守る放水のスペシャリスト～

火災をいち早く鎮圧するため、消火方法や戦術を追求する消火隊。水を自在に操るテクニックとチームワークが試されます。



救急隊 ～救急現場に駆け付け、命を繋ぐ～

救急救命士を先頭に、傷病者への細かな処置と温かい接遇を心掛けている救急隊。心肺蘇生や止血などの処置を行い、医師のもとへ命を繋げる重要な任務を担っています。



救助隊 ～人命救助の最前線で戦う男たち～

交通事故や水難事故など、救助活動の現場の最前線に立つのが救助隊。「1秒でも早く要救助者を救いだす」そのために日々の訓練に励んでいます。



予防査察員 ～火災を未然に防ぐ縁の下の力持ち～

現場で活動する消火隊の裏で、日頃から店舗や事業所などに立ち入って検査し、消防法令に適合し安全が確保されていることを確認することや、火災の原因調査を行っています。

消防広報誌発刊にあたり

消防のことを町民の皆様はどれだけ知っているだろうか。火災発生時の消火活動以外にも、急病人や怪我人を医療機関に搬送する救急活動、災害や事故により危険が切迫している人を助け出す救助活動などがある。それらの活動の根幹には、町民の安心安全な暮らしを守りたいという思いがあり、実現すべく日夜訓練に励む消防士、消防団員の姿がある。

町民の皆様には私たち消防人をより知っていただくために、五城目消防広報誌「砦」を発刊することとした。

今や日本を襲う天変地異は消防署や消防団だけでは対応できない場合が生じている。この広報誌をきっかけに防災・減災に取り組み、消防士、消防団員、そして町民全体で自助・共助・公助が連携し一体となった“災害に立ち向かえる町”を目指してはどうだろうか。



五城目町消防長

長谷川 誠

日頃から消防活動につきまして、ご理解ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

近年、火災はもとより記録的豪雨による河川の氾濫など町民の生命、身体および財産に係わる災害が発生し、我々消防への期待と、果たすべき責任を改めて実感しております。

このたび、消防広報誌「砦」の発行にあたり、町民の皆様へ日頃の消防活動を発信することで、更なる精進の糧とさせていただきます。ただけなら幸いです。



五城目町消防団長

小玉 多智美

五城目町消防団は、地域防災の要として、多様化する火災や自然災害に備え地域防災力の向上に努めておりますが、より強い消防団を作るためには皆様の新しい力が必要となります。ぜひ一人でも多くの町民の皆様にご加入いただきたく存じます。「自分たちの町は自分たちで守る」という郷土愛護の精神のもと、精進してまいりますので、今後とも、皆様からの変わらぬご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

「マモるチカラ」を必要としています。

消防団員はそれぞれの職業に勤めながら、「非常勤の地方公務員」として町民の安心安全な暮らしを守っています。そのため、災害活動手当、年報酬、公務によるケガの補償、公務外の病気やケガの入院見舞金、弔慰金、結婚祝い金、退職金など多くの手当てがあります。

【出勤手当】

1,500円～3,000円

1回の出勤・訓練に支給されます。

【年報酬】

20,000円～50,000円

役職によって異なります。

【退職報奨金】

200,000円～979,000円

5年以上従事された方が対象となり
役職・年数によって異なります。

【公務災害補償】

公務中にケガをした場合、通院入院費を補償します。

駆け付け時に使用した自家用車に損害が発生した場合、見舞金を支給します。

【福祉共済金】

公務内外に係わらず入院見舞金や、本人が死亡した際に弔慰金が家族に支給されます。

【結婚祝い金】

消防団員が結婚されるときに祝い金が支給されます。

【消防団応援の店】

五城目町の13店舗で、飲食代金、自動車整備代金、ガソリン代金などが割引になります。

五城目町消防団は皆さんの「地域を守る力」を必要としています。自分が住む町の安全・安心を守る消防団で、誇りを持って活動してみませんか？

詳しくは消防署、又はお住まいの地域の消防団にご連絡ください。

～編集後記～

この度、五城目消防広報紙「砦」を刊行する運びとなり、ここに記念すべき創刊号を発刊することが出来ました。「砦」を通じて、消防の活動を知っていただくとともに、町民の皆様とのコミュニケーションを取りながら、防災に関する情報を広く報じていければと思います。